

竹島問題の現状（竹島問題から尖閣問題へ）

2011.2.6（松江）
拓殖大学下條

1. 2011年1月24日、「独島総合海洋科学基地契約を要請」

「基地は海洋観測機能の遂行は無論のこと、わが国の独島主権を確固とし、東海という名前を国際学界に広く知らしめるのに寄与するものと期待」

- ①工事費 373 億ウォンの**独島総合海洋科学基地**設置工事。
- ②慶尚北道蔚陵郡蔚陵邑道洞西島（竹島の西島）の北側約 1 k m、水深 49.5m 海上。
- ③独島周辺と東海（日本海）の海流変化と海水水温、炭素循環過程などを観測。
- ④人工構造物の設置。工期は着工日から 900 日。
- ⑤工事概要は△土木工事：デッキ及びジャケット、ボートランディング製作、塗装△建築工事：デッキ建築物、ループデッキの観測制御室及び展望台△機械工事：燃料供給設備、雨水清浄及び供給設備、淡水化設備△電気工事：総合発電システム設備、航路標示設備、照明・電熱設備、電気方式設備、計装設備、その他電気設備△観測制御工事：観測・制御・通信設備、官給資材等
- ⑥調達庁はこの工事の設計図を検討し、入札に適用する PQ（入札参加資格事前審査）を決め、間もなく最低落札方式で入札の公告をする予定。

[建設経済ネット版（2011. 1. 24）報道]

2. 韓国側の対応

(1) 2010年12月6日、「慶尚北道庁、'先端水中施工ロボット研究開発事業' 青信号」

慶尚北道は海洋ロボット技術開発の前進基地としての役割を果たしながら国内海洋およびロボット産業発展に寄与はもちろん、独島など近隣地域に埋設されている天然ガスなど地下資源開発にも活用されると見られ、独島守護次元でも多いに役に立つと見られる。

[聯合ニュースネット版（2010. 12. 6）報道]

《参考》 11月19日（金）、慶尚北道庁、浦項知能ロボット研究所で水中ロボット関係者 200 名を集め「先端水中施工ロボット国際ワークショップ」を開催。日本参加

[ニュースワイヤーネット版（2010. 11. 18）報道]

(2) 2011年1月17日、「慶尚北道、海洋開発事業に拍車」

東海岸圏発展総合計画承認により、慶尚北道は昨年 12 月 29 日に確定した東海岸圏発展総合計画と連係して、東海岸発展方向とビジョンを新たに模索し、これを実現するために 2011 年度東海岸海洋開発のビジョンを含めた重要事業を選定、発表した。

▲東海岸を海洋科学中心拠点として育成

東海岸を海洋開発およびインフラを構築し、緑色海洋科学産業基地として育成するため、**鬱陵島(独島)海洋資源研究センター建設・独島総合海洋科学基地構築**。

▲鬱陵沙洞港拡充、独島防波堤建設。

▲その他事業

事業費 20 億ウォンを投じ、鬱陵島・独島など島嶼地域定住生活基盤の造成。

▲鬱陵島・独島海洋資源研究センター建設(鬱陵、2008～2011, 150 億ウォン)

独島総合海洋科学基地構築(独島、2009～2013, 500 億ウォン)

[聯合ニュースネット版 (2011. 1. 17) 報道]

(3) 2011 年 1 月 28 日、「**独島海域調査・研究人工構造物契約を要請**」

調達庁と韓国海洋研究院は、文化財庁の反対で漂流していた独島総合海洋科学基地設置工事に関して、契約締結を依頼したと 27 日、明らかにした。

[韓・毎日新聞ネット版 (2011. 1. 28) 報道]

(同日、同記事を独島本部がネットに転載)

(4) 2011 年 1 月 19 日、「**独島住民宿舎 5 月初め、竣工予定**」

慶尚北道鬱陵郡鬱陵邑独島里(西島) 20-2 一帯に総額 30 億ウォンをかけて建設中の住民宿舎拡張リモデリング工事を 4 月まで終え、5 月初め竣工式を持つ予定と 18 日明らかにした。

住民宿舎は地上 4 階に全体面積 373. 14 m²、高さ 11. 86m で、従来(2 階、全体面積 118. 92 m²など)より 3 倍大きい規模で建てられている。住民宿舎は独島住民として登録されたキム・ソンド(71)・キム・シンヨル(74)氏夫婦を含め、最大 40 人の同時居住が可能な部屋 5 個と浴室と台所(食堂含む)、倉庫 2 個、機械室(発電機 2 代)等を備えている。 [ソウル新聞ネット版 (2011. 1. 19) 報道]

(5) 2010 年 11 月 25 日、「**慶尚北道議会、独島守護特別委員会の活動/国会及び独島研究所と協調方案強く求める**」

慶尚北道議会の独島守護特別委員会は、11 月 25 日から 26 日までの両日、国会の独島領土守護対策特別委員会及び東北アジア歴史財団独島研究所を訪問し、独島領土守護のため協調方案を強く求めた。

慶尚北道が推進する独島防波堤、独島海洋科学基地建設、独島現場管理事務所、鬱陵沙洞港の二段階開発など、独島関連の懸案事業中、遅延または留保している事業が早期に推進できるよう国会が積極的に出るよう建議する計画。

[鬱陵独島インターネットニュース (2010. 11. 25) 報道]

(6) 2010年11月29日、「政府・道民とコード…地域発展絶好の機会」

＜インタビュー＞金寛容慶尚北道知事

管轄広域団体として独島領有権強化に努めている

独島領有権強化策は大きく2種類に分けて推進中だ。一つは独島の実効的支配を強化すること。残り一つは母島である鬱陵島を開発することだ。ハード面は政府が、ソフト面は地方が推進するのが原則。

政府は日本が2008年7月14日、中学校社会教科書解説書に独島領有権を明記して以後、独島の実効的支配強化のため28の事業に1兆82億ウォンを投じている。独島体験場・現場管理事務所・独島防波堤・総合海洋科学基地設置・鬱陵沙洞港2段階開発・住民宿舎拡張工事などがそれだ。

中央と別に慶尚北道で推進する代表的な事業は、独島を世界に知らせるグローバル人材養成のための‘サイバー独島士官学校’の運営だ。去る3月17日、独島でDMB放送の開通式を持ち、独島周辺の電波主権も確立した。先月には‘安龍福將軍芸術祭’を開催して、青少年等に国土愛のメッセージを伝え、全国の地理の教師とネイティブスピーカーの英語講師のための‘独島探訪’も拡大して、独島を国内外に知らせるのにも努めている。

また母島の鬱陵島を国際観光の島として開発し、独島に対する接近性を高め、独島にやって来る観光客らに海運運賃を支援する方案を中央に建議するなど、領土守護政策を持続的に推進している。

【世界日報（2010.11.29）報道】